

技術系経営人材育成 ビジネス・イノベーション・マネジメント・プログラム



2018年5月11日
一橋大学

日本のイノベーション停滞の本質的課題

高度経営人材の大幅な不足

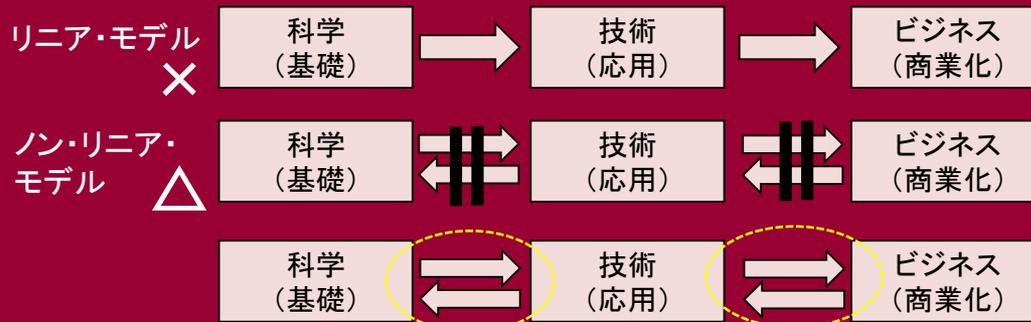
- 日本のイノベーションの停滞は、技術力の問題ではない。高い技術力をビジネスに事業化できる**経営人材**が**圧倒的に不足**している。
- 技術と事業と結びつける高度経営人材を育成するには、技術者を対象とした、**高度な経営管理教育の構築が急務**である。
- 理工系大学の教育に、社会科学系大学の経営管理教育を補強することで、高度経営人材の育成を加速し、イノベーションの創出を通じて日本経済の競争力向上に貢献する教育プログラムが不可欠である。

国内MOTの限界

- MOTとは
 - ・ 経営視点を有する技術者やCTO(Chief Technology Officer)の育成
 - ・ 技術開発と事業化に関する理論や枠組み、知識を習得

→ **技術**を基軸にした教育体系
 → 今必要なのは、**経営管理**を基軸に置いて**技術者を高度経営人材に転換**するのを促進する教育プログラム

イノベーション・スペクトラムを結び付ける経営人材



→ イノベーションの創出には、**科学と技術とビジネスを結びつける経営人材**が重要

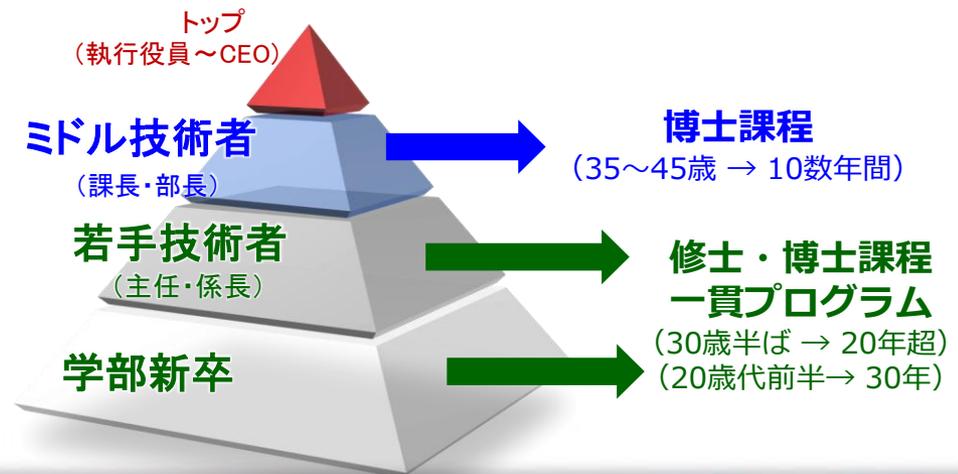
高度ビジネス・イノベーション教育プログラムの必要性

経営管理教育を中核とした 国際水準のビジネス・イノベーション教育プログラム

- 技術と事業を結び付けられる高度経営人材や高度経営専門職の育成
- 若手を対象とした修士・博士課程一貫プログラムと、ミドル技術者を対象とした博士課程の2本柱
- 一橋大学の国内最高水準の経営管理教育を基軸とし、産業技術総合研究所および海外トップスクールとの連携を通じて、国際水準の体系的なビジネス・イノベーション教育を提供
- 高度経営人材を育成するための教育内容の充実に加えて、経済的支援を含めた研究環境を充実

一橋大学の強み

- ビジネス・イノベーションの専門性を有する教員による**国内最高水準の経営管理教育**
- エグゼクティブ教育を通じた**技術系バックグラウンド**を有する経営幹部層の育成実績(花王、IHI、富士フイルム、麒麟ビールなど)
- MBAプログラムにおける将来の経営幹部候補の育成ノウハウ(企業派遣学生、理工系学部出身者)



ビジネス・イノベーション・マネジメント・プログラムの概要

技術と事業を結び付けてイノベーションを創出できる
高度経営人材と高度経営専門職を産業界に継続的に供給

文理共創教育の推進

産業技術総合研究所

- ・国内最大級の公的研究機関
- ・研究員約2300人
- ・全国10の研究拠点
- ・最先端の技術開発と事業化の実績

ビジネス・イノベーション・マネジメント・プログラム
(仮称)
一橋大学大学院経営管理研究科

イノベーション・マネジメント博士課程

- ミドル技術者 (理科系修士)
- 平日夜間・土曜日
- 長期履修

修士・博士一貫プログラム

- 学部新卒・若手
- 産学共同研究・海外留学
- 早期修了

海外大学院との連携強化

- Copenhagen Business School
- University of St.Gallen
- Singapore Management University

国内最高水準の経営管理教育の高度化

- 産学連携の更なる強化
- 大学院生の経済的支援
- 学内連携の強化 (法学研究科)

- クロス・アポイントメント制度を活用し、産総研の技術責任者を教員として招聘
- 先端技術や事業化事例など、技術経営の専門科目を設置
- 博士論文への助言と支援
- 大学院生を産総研に派遣し、技術開発事例や技術経営コンサルティング事例のフィールドスタディを提供

- 技術経営者による講義の充実や企業との共同研究の推進
- 大学院生をRAとして雇用し、共同研究への参加機会を提供
- 優秀な大学院生を対象とした奨学金制度の導入
- 国際学会での研究発表費用支援、英語論文の校閲体制整備
- 法学研究科との連携を通じた法務科目の充実

- 海外大学との提携 (SIGMAなど) を活かした組織的な人材交流
- アジアを中心とする新興国でのフィールドワーク
- 博士課程の大学院生を短期留学派遣 (数ヶ月～半年程度)
- 大学院レベルの単位互換制度の拡充
- 海外大学からイノベーションを専門とする研究者を招聘し、最新トピックや調査方法論に関する専門科目や短期集中講義を設置

ビジネス・イノベーション・マネジメント・プログラムの特徴

イノベーション・マネジメント 博士課程

- 技術と事業を結びつける高度経営人材を**インテ
ンシブ**に育成するプログラム
- 理科系修士号を有する**ミドル・マネジメント(課
長・部長)クラス**の技術者を対象
- 企業に勤務しながら、平日夜間と土曜日の就学
を通じて、3年間で博士号を取得
- 博士1年目に経営管理の基礎全般(経営・マー
ケティング・財務・会計)を学び、2~3年目に博
士論文を執筆
- 産総研や派遣企業との**共同研究プロジェクト**、
欧米トップスクールの教授陣による**国内集中講
義**など
- **計画的長期履修**制度を柔軟に活用(最長6年
間)

ビジネス・イノベーション・マネジメント 修士・博士一貫プログラム

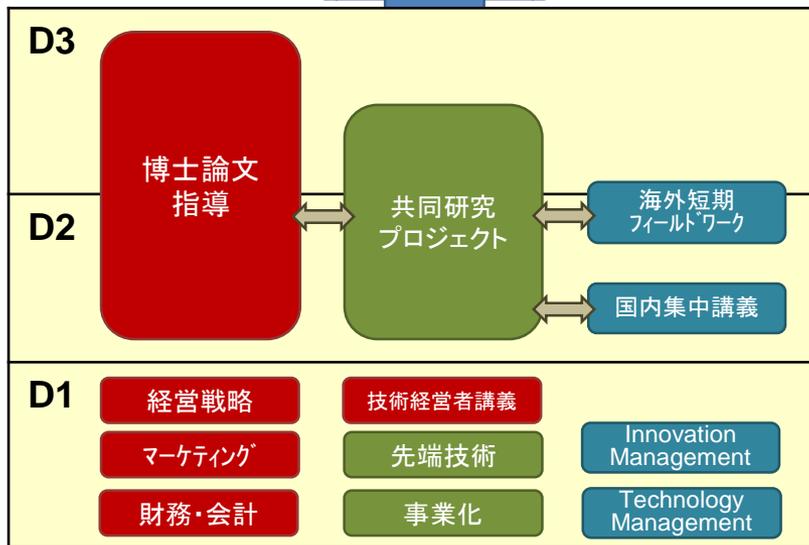
- 将来の高度経営人材となるリーダー層を体系的
に育成するプログラム
- 理科系学士号を有する**若手技術者(新卒学生を
含む)**を対象
- 国際水準のビジネス・イノベーションの専門性を
習得し、5年間で博士号を取得
- 修士課程の2年間で経営管理と技術経営、イノ
ベーションを学び、修士論文と**QE(Qualifying
Examination)**を経て、その後3年間で博士論文
を執筆
- 産総研による**技術経営科目**やフィールドスタディ、
法学研究科の**経営法務科目**、欧米大学院への
短期留学や**新興国のフィールドワーク**など
- **早期修了制度**を活用し、修士・博士課程をあわ
せて4年で修了することも可

ビジネス・イノベーション・マネジメント・プログラムのカリキュラム

イノベーション・マネジメント博士課程

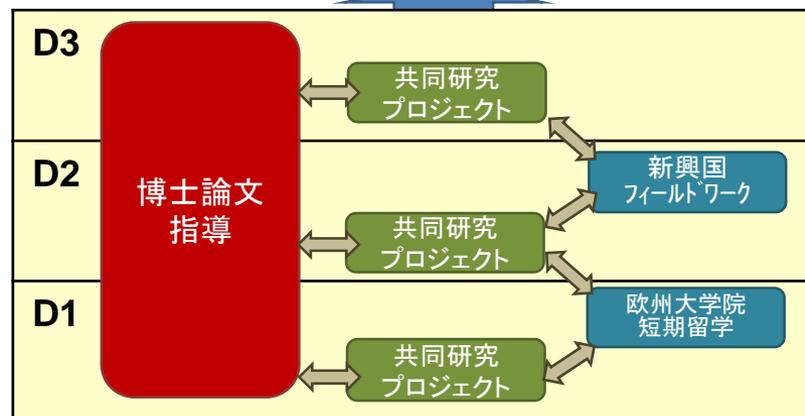
ビジネス・イノベーション・マネジメント 修士・博士一貫プログラム

技術と事業を結び付けてイノベーションを創出できる**高度経営人材**と**高度経営専門職**



理工系修士号を有する**ミドルクラスの技術者**

- MBAプログラムは、経営管理全般を広く学ぶため、技術経営やイノベーションの専門性を深耕することは難しい。
- 「イノベーション・マネジメント博士課程」は、経営管理の基礎知識全般を習得した後、共同研究プロジェクト、海外大学院の集中講義や短期フィールドワークを組み合わせながら博士論文に取り組むことで、特定トピックを深く考察する。
- 「修士・博士一貫プログラム」は、経営管理に加え、技術経営、経営法務、デザイン思考、起業などを幅広く学んだ後、共同研究プロジェクトと海外留学・フィールドワークを繰り返しながら博士論文に取り組むことで、国際水準の専門性を涵養する。



Qualifying Examination



理工系学士号を有する**若手技術者**や**新卒学生**